

令和7年度 府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>【スクール・ミッション】 文武両道を重んじる普通科を設置する学舎制高校として、スポーツ活動を充実させることにより、課題発見能力と確かな学力を身に付け、仲間と共に支え合い未来を切り拓く力を備えた人材を育成する。</p> <p>【教育理念】 真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する。</p> <p>【教育目的】 我が国や地域社会の発展に貢献する「社会的使命感と青雲の志」を持つ人間の育成</p> <p>【スクール・ポリシー（三つの方針）】</p> <p>1 育成を目指す資質能力に関する方針 ～社会的使命感と青雲の志～ ・幅広く深い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う。 ・自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に貢献する。 ・伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐとともに、国際社会の平和と発展に寄与する。</p> <p>2 教育課程の編成及び実施に関する方針 ～平日6時間授業(週30時間)+ 放課後活用 = 一人一人の可能性を伸ばす～ ・確かな基礎学力に基づいた課題発見・解決力を身に付け、主体的に未来を切り拓くことのできる能力を養う。 ・他者との対話や議論を通じて、互いに多様性を認め合い、協働していくことができる態度を養う。 ・学校と地域社会との「学社協働」を通して、持続可能な地域社会の在り方を探究することで、自身と社会のwell-being(幸福)につなげる姿勢を育てる。 ・特にアスリートスポーツコースでは、専門競技を探究するとともに、マルチスポーツ体験及び小・中学校や支援学校との交流を通して、周囲への感謝を忘れず謙虚さを併せ持つ態度を養う。</p> <p>3 入学者の受入れに関する方針 ～学習×部活動×地域社会 = 幸せ織りなす人生～ ・授業、探究活動や部活動等を通して、仲間と協働しながら充実した高校生活を送り、豊かな人間性・社会性を身に付けたい生徒 ・知的好奇心を持って地域社会で学び得た知識や技能を、将来にわたって社会の持続発展や自らの幸せにつなげようとする生徒 ・仲間と協力しながら自らの専門競技や文化部活動等に打ち込むとともに、謙虚な心や豊かな感性を身に付け、チームに貢献し続ける生徒</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多様な教育課題に関する教職員研修を充実させることで、日々の教育実践に活かしていくことができた。 ○新学習指導要領に基づく指導や、各種ICTツールを活用した学習活動を進めていくことができた。 ○両学舎の全校生徒が一堂に集まり芸術鑑賞を実施するなど一体感のある学校づくりを進めた。 ○探究活動等において、高校魅力化コーディネーターと密な連携をとり具体性の伴った活動が一定の成果を上げた。また、外部機関との連携を拡充し、地域社会に目を向けた取り組みが充実できた。 ○数多くの担任・学年部長面談や三者面談、各種進路行事を通じて、生徒の進路意識の向上を図った。特に、3年生の希望進路の実現に向けては、組織的に支援を行い、国公立大学2名、就職内定率100%といった進路実現を果たした。 ○1つの学舎のみに設置されている部活動に、両学舎の生徒が参加ができる体制に拡充した。 ○校内における関係分掌や教職員だけでなく保護者等や外部機関との連携を密にしながら、生徒に寄り添った個別最適な支援を行った。 ○DXハイスクール校として設備を充実した。 ○インスタグラムを活用した発信を新たに開始し、本校への理解と信頼を広めるための広報活動を計画的に進めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「仲間と共に支え合い未来を切り拓く力を備えた人材の育成」のため、多様な生徒の関わり合いを意識した取組の拡充 ●一体感のある学校の構築と、学舎制ならではの教育をさらに推進するための教職員の意識 ●探究活動等をキャリア形成につなげる支援 ●探究活動等の発表会などを多くの方が参観できる工夫 ●これまでの取組の枠にとられない地域連携や地域貢献の在り方 ●DXハイスクール事業で整備された施設設備を活用した取組 ●生徒の規範意識が不十分な行動等について、全教職員で一貫した指導体制の構築 ●自転車マナーの向上など交通安全教育 ●SCやSSW等と効果的に連携した校内外における支援会議の在り方 ●個人情報保護の観点をしっかりと意識した広報活動 	<p>1 一人ひとりにきめ細かな指導を展開し、基礎学力及び発展的な学力を身に付ける。探究的な学習を通して、他者と協働しながら、主体的に学ぶ姿勢を育成するとともに、自らの希望進路を切り拓くために必要な学力を養成する。</p> <p>2 平日6時間授業のメリハリのある教育を展開し、学習との両立を図りながら、放課後時間を有効に活用し、アスリートスポーツコースを核とするスポーツ活動や運動部・文化部の部活動の一層の充実を図る。</p> <p>3 地域探究・地域貢献活動やボランティア活動を積極的に行うとともに、スポーツ交流など小・中学校、地域社会と連携した取組を推進することで、生徒の自己有用感を高めるとともに、地域社会に貢献し信頼される学校を目指す。</p> <p>4 学舎制の特色を活かした遠隔教育システムによる授業や学校行事・部活動での連携とともに、アスリートスポーツコースの一層の活性化により、入学した生徒が広い視野を持ちながら大きく成長でき、学校と地域社会が共に発展する魅力的な教育活動を行う。</p> <p>5 本学舎の特色ある取組や魅力をホームページ、ニュースレター、学校公開など、あらゆる機会を活用して発信し、入学希望者の増加につなげる。</p> <p>6 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、ステージに応じた資質能力の向上を図る。また、学校DXの推進やICT活用、観点別評価の研修を深め、授業改善を推進する。</p>

評価領域	項目（重点目標）	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	○学舎の特色化と積極的な情報発信により入学希望者の増加に繋げる。	○本学舎の魅力を積極的に発信し、各種説明会の実施やアスリートスポーツコースの活性化、部活動での勧誘を通して志願者確保を進める。	B	B	B	○部活動加入率は78.1%、2年生のアスリートスポーツコースは14名で、過去10年で最高値となり活性化が図られた。学舎間バスが有効利用できており、このことが部活動の活性化の大きな支えとなった。 ○両学舎合同での探究活動報告会や学舎間交流会を開催するなど、両学舎での学習活動を推進できた。
	○学舎間連携を積極的に実施するとともに学校体制の充実を図る。	○学校行事や部活動、遠隔授業、探究活動等の合同での学習を積極的に行い、両学舎の生徒・教員の交流を推進し、相互理解と多様性を認め合える豊かで寛容な心を養う。	B	B		
学習指導 ・ 進路指導	○一人一人に寄り添うきめ細かな指導により学力の向上を図る。	○放課後活用等を利用し基礎学力の充実を図りながら、探究活動や各種ガイダンスで進路に対する理解を深める。 ○面談をはじめとする一人一人に寄り添った指導を行い、希望進路実現に向けて組織的に支援を行う。	A	A	A	○学年団を中心にすべての教職員で面談や、放課後活用（マナティー）をはじめとする教科指導、面接練習・小論文指導等の進路指導に取り組み、3年生の多くの生徒が第1希望の進路を実現した。 ○授業や探究活動、各種発表において各種アプリを利活用できており、学びをより深められるようバランスの良いICT活用を推進していきたい。
	○地域等での探究活動等を通して、希望進路の実現に必要な主体的に学び考える力を養成する。	○タブレット端末の活用や観点別評価の実施、地域等での探究活動の推進により、将来を予測することが難しいこれからの時代で生き抜く力を身に付ける。	A	A		
生徒指導 ・ 特別活動	○規範意識の一層の向上を図るとともに、諸活動の充実により主体的・協同的に活動する生徒を育成する。	○遅刻の防止、制服の着こなし、頭髪や身だしなみをはじめマナーを守る重要性和と集団の一員であることを理解させ、発達支持的生徒指導（未然防止）に務める。	B	B	B	○朝の遅刻指導等を通じて時間やルールを守ることの大切さについて日々声かけをした。予鈴遅刻者は昨年度より微減となった。次年度も発達支持的な指導を実践していく。 ○学校祭では文化祭、体育祭ともにさわやかな取組となった。また今年で53回目となる与謝の海支援学校との交流会はたいへん盛り上がり、相互理解が深まった。
		○日々の部活動や定期ボランティア、また、学校祭や支援学校との交流会等への積極的参加を促すことで、自他を大切にす気持ちや、仲間と協力しながら自己の役割を果たすことのできる生徒を育む。	B	B		
健康安全 ・ 教育相談	○生命を尊重する態度を育て、健やかな心身の育成を図る。 ○校内美化、感染防止を進め、安心・安全な教育活動を行う。	○性教育を充実させ、互いの多様性を認め合う。教育相談会議など、相談体制の充実を図り、要支援生徒の早期把握と適切な対応を各専門機関と連携しながら進める。	B	B	B	○性教育では、人権尊重を基盤に外部講師や関連教科と連携し多様な学びの機会を包括的に進めた。今後、発達段階に応じた個別指導も充実させていく。 ○生徒の抱える健康問題が多様化しており、課題の背景について分析しながら具体的な支援方法を各分掌と協議し進めることができた。 ○美化安全意識を高められるよう、保健委員会が主体的に活動する場を計画し、取組を進めた。
		○校内美化、学習環境の安全・衛生的管理を行い、安全に教育活動を進められるようにする。また、感染症の流行期においては予防と発生時の対応を迅速に進める。	B	B		
家庭・地域・ 社会連携	○家庭・地域社会との連携をより強固なものとし、教育活動の充実を図るとともに学舎の特色化を推進する。	○与謝野町高校魅力化コーディネーターとの強力な連携により、生徒が地域社会等と積極的に繋がり、探究活動や地域貢献の取組を推進する。	A	A	A	○コーディネーターを通じた地域連携が強化されており、生徒の積極的な探究活動に繋がっている。 ○夏季の保護者等面談や文化祭PTA模擬店、学年PTA集会、交通安全街頭指導等、PTAと積極的に連携を図ることができた。
		○PTA活動の充実を図り、保護者等面談や各種説明会等での情報提供を通じて、家庭・地域社会との連携を充実する。	B	B		

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○卒業生185人が厳粛な式の中、真剣な目で前を向いて座り、胸を張って退場する姿が、教育成果を象徴していた。 ○学舎間が連携し、宮津天橋高校としての「とがり」が似合う学校になってきた。 ○探究活動を通して、地域課題を考えることにより地域への愛着が上がってきている。 ○生徒指導において、何かをするなというより、これをしようという指導がよいのではないか。プラスの同調圧力が集団の力になる。 ○生徒指導について、より高い目標を持って前向きに低い評価をしている様子が伝わってくる。今後も期待したい。 ○自分で選んだ学校だから、その学校のルールは守ると思える生徒を育てる。
----------------------------------	--

<p>次年度への 改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「統一と個性」をキーワードに、全体に共通する目線合わせとともに、個性を伸ばす指導も行うバランスを取っていく。 ○社会の風潮は自由が良いとされているが、宮津天橋高校は「力が伸びる学校」としての存在感を出すのがよい。誰でも来てくださいというより、こういう覚悟や夢を持った生徒が来てくださいという学校になってほしい。 ○小・中学校との連携を進める中で、小・中学校の指導者が高校での学習を理解し、授業が展開できるような取組も考えてみてほしい。 ○学校で全て抱えるのではなく、医療や警察や行政などの専門家と連携し、生徒をつなぐことが今後も重要であるとともに、卒業後の社会とのつながりも作っていく。 ○A Iの時代において、人と人のつながりがより重視される。そのため、人を通して学ぶことを大切にしてほしい。
-------------------------	--